



# 松江第一中学校だより

江戸川区立松江第一中学校  
江戸川区松江5-5-1  
校長 瀬戸 完一  
令和6年7月9日 第4号

すべての生徒が安全・安心に生活し、夢や希望に邁進できる学校を築く

## そうさ 匝瑳市から松江一中へ

校長 瀬戸 完一

そうさ  
匝瑳市は千葉県の北東部に位置しており、江戸川区からは約70キロ離れた場所にあります。匝瑳市と松江第一中学校は深い関わりがあるのを知っていますか。今年度から皆さんが本校で使用している電力は、匝瑳市内で創出された電力で賄われています。匝瑳市で行われている「ソーラーシェアリング方式」で発電された環境に優しい電気が使用されているのです。校内の照明、空調設備、放送器具などの皆さんが使用している学校の電気は、匝瑳市で発電した電力を江戸川区に送電し、松江第一中学校にて使用しているのです。江戸川区立幼・小・中学校99校の中で松江第一中学校だけで行われている新しい試みです。

昨年度、江戸川区は再生可能エネルギー（再エネ）の活用を促進しようと、国内最大規模のソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）を有する匝瑳市と「再生可能エネルギー活用を通じた連携協定」を締結しました。ソーラーシェアリングとは、農業用地に支柱を立て、上部空間に太陽光発電設備を設置し、農業を営みながら太陽光発電をおこなうシステムです。大きな特徴として自然環境を維持しながら、再エネ電力を創出することができるのです。自然エネルギーを利用する発電設備は枯渇することのない太陽光や風力・水力などを使って電力を作り続けることができます。本校で使用している電力は匝瑳市内の農地約1万平方メートルで創出されました。この取組により、年間約25万キロワット時の電力を再エネ電力に切り替えているのです。

○松江一中の皆さんに理解してほしいことは大きく2つあります。

- ① 気候変動問題の被害を最小限に食い止めるため、温室効果ガスの大気への排出量を実質ゼロにする「脱炭素」を社会が目指していること。
- ② 脱炭素の取り組みの1つとして、江戸川区では千葉県匝瑳市でソーラーシェアリングによる電気を買って利用することになったこと。松江一中ではその電気が使われていること。

脱炭素とは、地球温暖化の原因となる代表的な温室効果ガスである二酸化炭素の排出量をゼロにしようという取り組みのことです。カーボンニュートラルとは温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します。

安心して暮らせる持続可能な社会の実現に向けて、環境保護と生活利便性の両立について考え、一人一人が「自分ごと」として捉え行動していくことが必要ではないでしょうか。身近なエネルギーの消費や資源の使い方の工夫などで、温室効果ガスの排出を削減することができます。日常で自分が実践できることを考えて、行動することが求められています。

江戸川区では2050年までに温室効果ガスの排出量を吸収量が上回る「カーボン・マイナス」を目標に掲げており、「カーボン・マイナス都市宣言」を表明しています。「ともに生きるまち」を目指し、誰一人取り残さないことを理念とするSDGsを推進しています。身近で簡単に取り組める行動が「SDGsえどがわ10の行動」としてまとめられています。